

平成 30 年度 第 2 回スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会

日時：平成 31 年 2 月 8 日 12 時 20 分～13 時 10 分

場所：千里高校 校長室

出席者：

○運営指導委員

久 隆浩	委員	近畿大学 総合社会学部環境・まちづくり系専攻	教授
羽間 功	委員	吹田市立高野台中学校	校長
秦 健吾	委員	大阪府教育センター 高等学校教育推進室	指導主事

○管理機関・大阪府教育庁

松下 信之	教育振興室 高等学校課 教務グループ	主任指導主事
-------	--------------------	--------

○千里高校

天野 誠	校長
山下 尚紀	教頭
大西 千尋	首席 (SGH 事業推進主担当・英語)
渡辺 肇	教諭 (国際科学教育部長・国際文化科長・英語)
松井 活夫	教諭 (「探究」「探究基礎」チーフ・国語)
菊池 奈津子	教諭 (「探究」担当・国語)
二井 三喜夫	教諭 (「探究」担当・社会)
中西 雅治	教諭 (「探究」担当・英語)
宮野 伊津子	教諭 (「探究」担当・英語)
近澤 一友	教諭 (1 年「国際理解」担当・社会)
田中 光	教諭 (国際科学教育部 SGH 委員会担当・英語)

次第：

1. 校長挨拶
2. 本校の SGH 事業の取組状況報告－別紙資料に基づいて
 - ① 前回の運営指導委員会以後の実践報告
 - ② 来年度の計画と予算
3. 指導助言

主な助言

・ 好評価

- ・ 課題設定の工夫が感じられた。
- ・ 生徒の研究に質の向上が感じられる。
- ・ 学校としてのチーム連携も進んでいる。

・ 助言

- ・ 素朴な質問に答えられない場面があった。発表では適度な情報量が必要。質問が出てくる、そして答えられるような対話になる発表が望ましい。
- ・ 屠殺の研究は、さらに広げて考えることもできる。差別には他にどんなものがあり、共通することは何かなど。
- ・ 生徒同士が修正しあえる場が必要。
- ・ 外部人材のデータベース化を進めると良い。(大学の高大連携部門経由で出張講義も可能、海外の事情については、国際交流協会や大学の外国語学部の先生や留学生も協力してもらえるだろう)
- ・ 限られた時間・資源で論文を作成するのだから、適切なテーマへの誘導が必要。
 - テーマ設定の際にどのような方法を用いるのかをセットで考えて提出を求めると良い。
 - 海外の事情に興味を持った場合でも、日本に置換えて考えると現場にアクセスできる。